日刊工業新聞 年月日 15 05 08 ページ 21 NO.

週末は別人

ルースヒースガーデン社長 **奥出 えりか氏**

着物に日常の豊かさ学ぶ

この春に学生時代の友人と着物で鎌倉にあるお寺をまわった。ちょうど桜の季節。季節の移ろいや自然の美しさを楽しんだ。週末などどこかに行く時は着物を着る。鎌倉だけでなく、銀座や浅草にも行く。着物姿だと目立つようで外国人から写真撮影を頼まれることや、テレビでインタビューを受けたこともある。

◇

着物との出会いは中学1年生の時だ。中学から大学まで約10年間、茶道をやっていた。着物はお茶会で着付けてもらっていたのがきっかけ。本格的に着物を始めたのは学校を卒業してから。週末、着物教室に通い、途中間が空いている時期もあるが、通い始めて3年近くなる。

着物や茶道には礼儀やしきたり、食など日本人の考えが随所に詰まっている。季節や自然、日常の豊かさを感じることができ毎日が楽しくなる。

大学ではメディアデザインを専攻し、今の仕事もデジタルメディアを生かした事業を手がけている。デジタルメディアというと欧米的なものを連想し、日本的な〝和〟とはかけ離れているようにも見える。だが、日本的なものと私たちが目指すデジタルメディアには共通する考えがある。

大学時代、雨のインスタレーション（芸術的空間）を作った。これは本来、不快であるはずの雨の日を楽しい気分で過ごすための空間を演出したものだ。雨をマイナスとしてとらえるのではなく雨を楽しむ。日常の変化の中に楽しみを見いだすという姿勢は茶道や着物から学んだところだ。

ルースヒースガーデンも日常生活に彩りを与えるデジタルメディアの創出を目指している。単に綺麗なものではなく、その裏にある文化や歴史などを表現していきたい。茶道や着物は今の仕事に生きる部分があると思う。むしろ、着物や茶道をやっていなかったら、今の仕事はなかったかもしれない。

発想や感性。自分への情操教育。会社と違う世界を持つことは大事だ。仕事だけでは自分の世界は狭まってしまう。大学時代の恩師が「仕事は趣味のように、趣味は仕事のように取り組め」と言われたが、趣味にも本気で取り組みたい。

デザインとデジタルの融合を掲げ、最新技術でオンリーワンの商品制作に取り組んでいる。新しい技術や誰も思いつかない発想力で、新しいものを生み出していきたい。

着物や茶道からは心の潤い、季節の移ろいを感じられる（写真は鎌倉で）

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社